

キヤノン株式会社
2023年経営方針説明会

イメージンググループ

2023年3月6日

専務執行役員 イメージンググループ管掌

山田 昌敬

Canon

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性あることをご承知おき下さい。
一部画像を削除しております。

イメージンググループ事業分野

イメージングの役割を「撮る・見る」から、「映像体験」、「映像活用」へ広げ、
新しい事業領域を作る

体験する

活用する



イメージンググループの事業領域です。

現在イメージンググループを支えている主な製品群は、EOS Rシステムを中心に、シネマEOSシステム、業務用ビデオ、放送レンズ、ネットワークカメラ等で構成されています。

これらは、撮る・見ることを目的として事業成長してきましたが、これからは新たな技術の開発と市場変化への対応を進め、映像を「体験する」「活用する」、「コンポーネントを活かす」、新しい事業領域への展開を進めています。

2022年の成果と成長戦略（イメージング）

Canon

成果 グループ増収増益 利益率が大きく改善

利益率

- 2021年実績12.0%、2022年実績15.8%

カメラ

- ミラーレスのシェアを堅持
- EOS Rシリーズ初のAPS-C新製品が加わり販売台数増

ネットワークカメラ他

- ネットワークカメラはアクシスが大幅な増収で史上最高の売上
- 自由視点映像が米プロバスケットボールや国内のプロ野球放映で反響



成長戦略 現行事業で高い収益性を維持しつつ新規事業を創出

2025年グループ全体で売上1兆円を目指す

3

昨年の成果と今後の成長戦略です。

去年はイメージンググループで増収増益を達成し、特に利益率が大きく改善しました。

カメラは、市場での高い評価のもと、ミラーレスのシェアを堅持するとともに、新製品の販売も好調で、イメージングの大黒柱として収益を支えています。

ネットワークカメラは、アクシスが大きく成長し、史上最高の売上を達成しました。また、新たな取り組みである自由視点映像がCMやドラマなど活躍の場を広げており、国内外のプロスポーツ放映でも好評です。

今後の成長戦略は、「現行事業で高い収益性を維持しつつ新規事業を創出」することです。

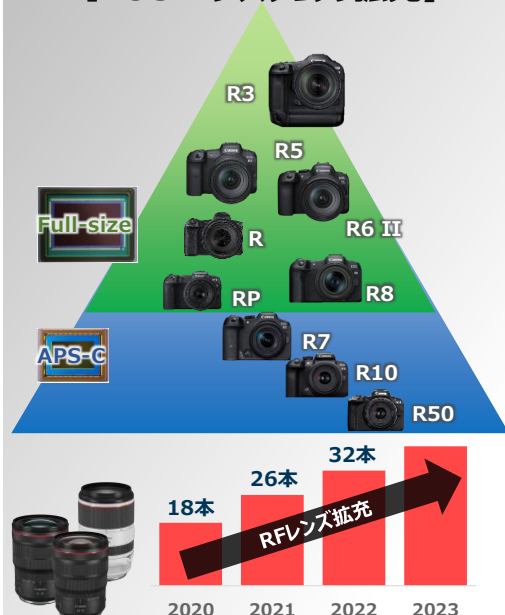
EOS Rシステムをはじめ既存製品群で、市場の要望を先取りした魅力ある製品を提供し、利益体質を強化しつつ、グループシナジーを活発化し、これまでにない価値を提供する製品やソリューションにより、新しい市場と事業を創出してまいります。

そして、2025年イメージンググループで売上1兆円を目指します。

成長戦略（シェア圧倒的No.1）

Canon

【EOS Rシステムの拡充】



カメラシェアNo.1 Rシステム強化

【動画指向顧客への展開】

クリエイター

“新しい”映像表現

報道

静止画・動画
ワンマンオペレーション

SNS配信

シンプルワークフロー
マニタイズ

一部画像を削除しております。

【VRシステムの展開】

認知拡大

アプリ/ソフト
使いやすさ向上

VR映像環境づくり支援

今年のレンズ交換式カメラ市場は全世界で550-600万台を見込んでおり、そのうちミラーレス比率は70%を超えると想定しています。

当社は今年もレンズ交換式カメラのシェアNo.1を堅持すると共に、ミラーレスでもNo.1シェアを目指します。さらに、当社は、シェアだけでなく、3つの施策でEOS Rシステムのボリュームそのものの拡大も図っていきます。

1つは、「EOS Rシステムの拡充」です。カメラ、レンズともにラインアップを充実し、多様なユーザーの要望に応えていきます。

さらに昨今、映像クリエイター、報道系ユーザー、SNS配信ユーザーなど動画志向ユーザーの層は厚く、かつ増大しています。静止画だけでなく、動画でもユーザーの要望に応える機能・性能を盛り込むことで、Rシステムの規模拡大を目指します。

また、イメージングは2Dから3D、XRへの世界へと変わっています。これら将来の需要を見据えEOS VRシステムの展開にも注力し、「VRの認知拡大」「アプリ・ソフトの使いやすさ向上」「ユーザーのVR映像を楽しむ環境作り」にも取り組んでまいります。

成長戦略（収益体質強化）

Canon

【効率的開発体制】

生産性の向上



シミュレーション活用

設計自動化

【内製化の推進】



【効率的生産体制】

DXの推進

出荷 調達
検査 加工
調整 組立

自動化の推進



イメージンググループ全体で生産性向上を図ることで、収益力をさらに向上させます。

開発部門では、既に多くのシミュレーションを活用しており、一部の製品においては既に試作検証を必要としない開発プロセスを実行しています。これからも、シミュレーション技術の進化により、開発期間短縮と高品質化を進めます。

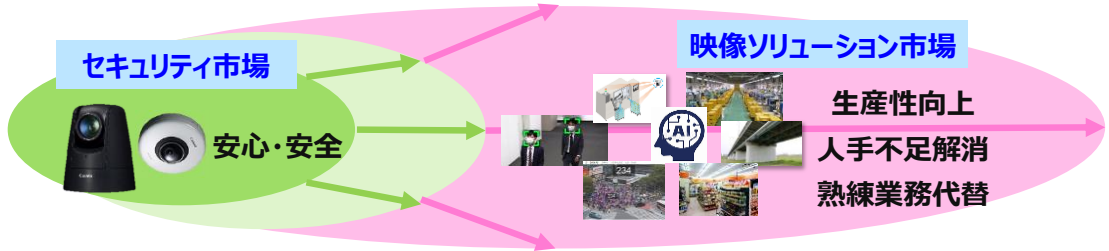
また、各製品をそれぞれ個別の設計とするのではなく共通プラットフォーム構想の下で効率的な開発を進めています。さらには、設計の定型作業を自動化し、設計時間を短縮することで、設計者は、高性能、高品質な製品開発により多くの時間を割くことが可能となります。

生産部門においては、まずは工場内のDX化により、複雑な各種工程管理を集中制御し効率的な生産プロセスを構築します。

自動化においてはさらにその活用領域を広げ人依存からの脱却を目指します。また内製化にも取り組むことで、設備のコストダウン、高品質なモノづくりにつなげていくことに加えて、外部影響を軽減によるBCPへの貢献も目指します。こうした施策により国内工場のコスト力をさらに高めてまいります。

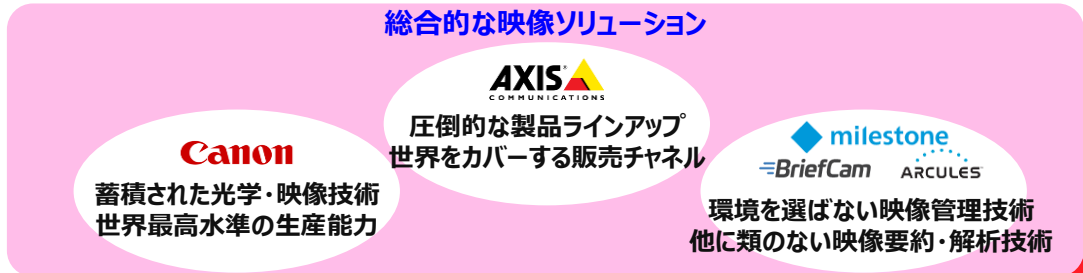
成長戦略（ネットワークカメラ事業の拡大）

ネットワークカメラ市場はセキュリティから映像ソリューションへ二桁成長



キヤノングループは世界市場※NO.1を維持しながら市場を上回る伸び率で成長

(※除中国)



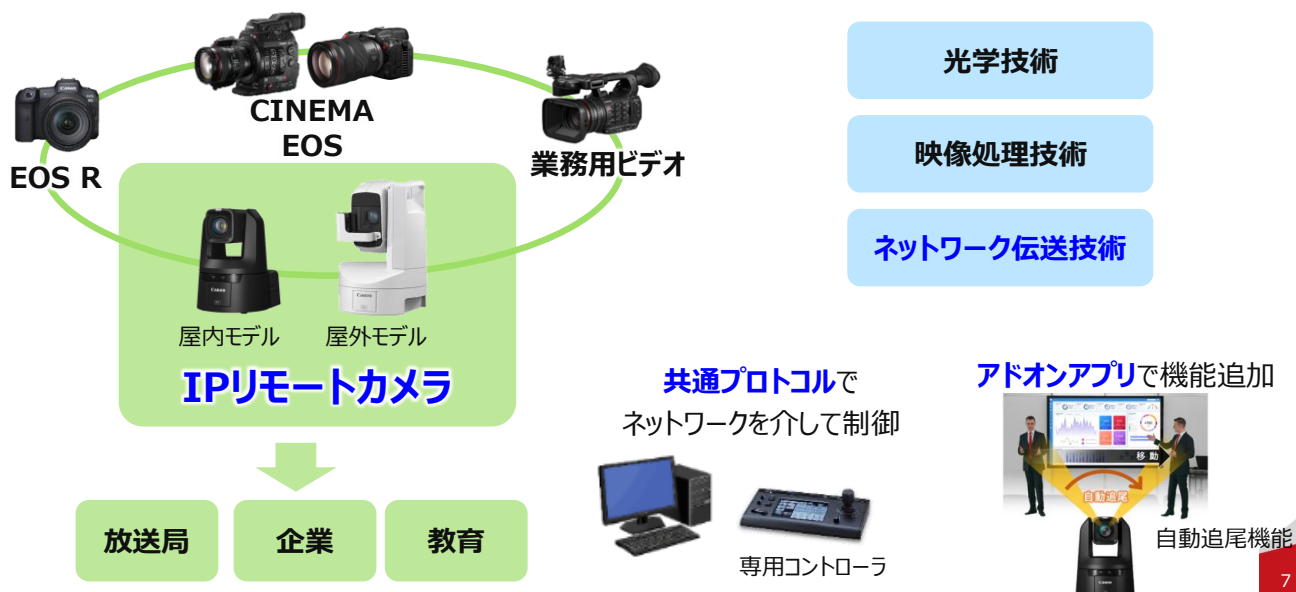
ネットワークカメラは、引き続きセキュリティ用途での成長が見込まれていますが、加えて、今後は、生産、教育、医療、小売りなどの現場で、生産性向上や人手不足解消を目的にしたDX用途での映像ソリューションが期待できることから、全体で2桁の市場成長が予想されています。

アクシスの圧倒的な製品ラインアップと世界をカバーする販売網を軸に、長年蓄積したキヤノンの光学映像技術とマイルストーンをはじめとするグループ会社の映像管理・解析技術を活かし、ネットワークカメラだけでなく映像ソリューション領域もカバーし、市場を上回る伸び率での成長を実現します。

成長戦略（映像制作システムの進化）

Canon

映像制作市場での省人化・リモート化へのシステム対応



近年、映像制作市場では、映像コンテンツの爆発的な増加に伴い、省人化やリモート撮影を求める要望が増え、ネットワークを介して制御できるIPリモートカメラへの需要が高まっています。

当社は屋内、屋外の多様な用途をカバーするIPリモートカメラのラインアップを有しており、放送局、企業、教育等の市場要望に応えています。

IPリモートカメラはビデオカメラとネットワークカメラの技術が融合したグループシナジーの一例です。今後、IPリモートカメラだけでなくシネマEOS、業務用ビデオ等の機材も共通プロトコルによって、同じネットワーク上に接続できることで、映像制作システムの使いやすさが飛躍的に向上します。

また、アプリケーションソフトをカメラの中にアドオンできる仕組みを設けることで、自動追尾など、生産財として有用な機能を継続的に追加できるようになるため、ユーザーの利用価値向上にも貢献します。

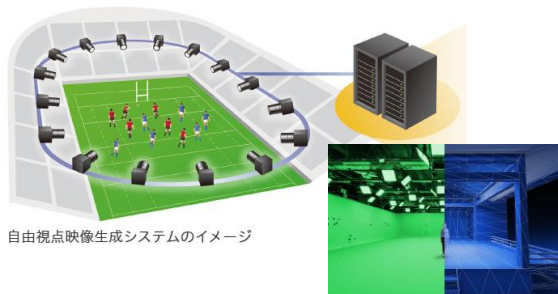
成長戦略（新たな映像体験への挑戦）

Canon

これまでにない臨場感と没入感で**市場を創出し活用を広げる**

ポリメトリック映像（自由視点映像）

スタジオやスタジアムの実写から生成



使用例

米プロバスケットボールや国内プロ野球等の
スポーツ放映、CM、ミュージックビデオ等

XR

現実と3DCGを違和感なく融合



使用例

製造業でのバーチャル試作、生産ラインでの
作業姿勢や設備の設置場所の確認（MR）
ウェディング、ライブ配信等（VR）

ポリメトリック映像は、複数のカメラで撮影された映像から撮影対象の3Dモデルを生成し、再構成する技術です。再構成の際、任意の位置・角度・時刻の視点からの映像を、任意の背景映像に重ねることで、新しい映像体験を提供可能です。すでに、企業CMやTV番組でも数多く採用されており、去年は国内外のプロスポーツでの中継放送にも使われ、反響を呼びました。

さらに、当社は、XRシステムの販売を開始しております。VRは、EOS Rシステムのカメラと専用レンズを使って撮影したものが、高画質の3D映像として迫力ある近距離で体験可能です。

そしてMRは、現実映像と3DCGの違和感ない融合によって、臨場感あふれる実寸大の世界を体験可能にするもので、製造業での試作や生産シミュレーション等で活用されています。

当社のポリメトリック映像とXRは、これから市場の急拡大が期待されるメタバースなど3D映像領域において、市場をリードできる臨場感と没入感を提供できるソリューションだと自負しており、積極的な事業展開を進めていきます。

成長戦略（高度監視への展開）

公共施設や重要インフラ等の監視領域にキヤノンの技術や製品の性能を活かす



1. 民生商品開発で得た 卓越したイメージング技術



高感度フルサイズCMOSセンサー搭載カメラ



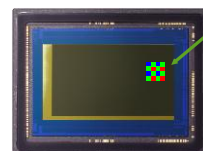
映像鮮明化技術

2. 他社の追従を許さない 豊富なレンズ群



3. 高感度センサーの進化

35mmフルサイズ CMOSセンサー



画素ピッチ
19μm

画素ピッチ
6.39μm

1型SPAD
イメージセンサー

従来型の1/9サイズ 超低ノイズ
SPADセンサー搭載製品開発

昨今の社会情勢を反映して公共施設や重要インフラ等で夜間や遠方からの監視の必要性が増しています。

当社は、これまで民生商品の開発で得たイメージング技術を活かしてつくられる高感度カメラや映像鮮明化技術、さらには、様々な焦点距離や画角をカバーする豊富なレンズ群を有しており、高度監視ニーズに応えることができます。

さらに、微弱な光の粒子を独自の画素構造により効率よく捉え、暗闇でもフルHDを超えるカラー撮影が可能な超小型SPADイメージセンサーの開発に成功しており、今後このSPADセンサーを搭載した超高感度カメラの開発を進め、高度監視領域の成長エンジンとして活用していきます。